

◆Talk 24://浅草鬼嫁日記



『あやかし夫婦は
今世こそ
幸せになりたい。』
友麻 碧/著
KADOKAWA

主人公の茨木真紀と天酒響は、平安時代に大妖怪とよばれた鬼、茨木童子と酒吞童子の生まれ変わりとして現代の浅草で再会しました。同じく前世の友人である継見由里彦と共に学生生活を謳歌する元夫婦の息ひつたりな日常が描かれた作品です。

「なぜ我々あやかしは人間に復活されなければならなかったのか」と悩みながらも現代を生きる真紀たちは、あやかし同士のトラブルに自ら飛び込みたり巻き込まれたり…。人間になってもあやかしたちに振り回される二人ですが、かつての仲間たちとともに立ち向かいます。

シリーズを読み進めることに「巻タイトルの『今世こそ幸せになりたい』の意味をより深く感じることがあるので、夏休みなど時間があるときにぜひ読んでみてくださいー！(全11巻)

作者の友麻碧さんの作品である『かへすめの宿飯』と同じ世界の物語であるため、後の巻では一部見覚えのあるあやかしやキャラクターが作品の垣根を超えて登場します。どの作品も面白いのでぜひ読んでみてほしいですー！この美しい表紙が田中さん！(メル)



少年の
小部屋

2025年
5月29日
発行
最後の
ゲド戦記

アースシーを舞台にしたファンタジー小説の傑作「ゲド戦記」(全6巻)。1～3巻は魔法使いゲドの活躍がえがかれ、4巻と6巻(5巻は外伝)では、アースシー世界全体について語られます。シリーズに新しく関わった本書は、作者の講演やエッセイ、それに初訳の短編が収録されており、アースシー世界をより充実させる一冊になっています。



『火明かり』
(ゲド戦記 別冊)
アーシュラ・K.
ルニグウィン/作
岩波書店

- ・序文(井上 里/訳)
- ・オドレンの娘(井上 里/訳)
- ・火明かり(井上 里/訳)
- ・アメリカ人はなぜ竜がこわいか(室住 信子/訳)
- ・夢は自らを語る(山田 和子/訳)
- ・子どもと影と(青木 由紀子/訳)
- ・「ゲド戦記」を“生きなおす”(清水 真砂子/訳)

編集後記 ティーンズレター第60号はいかがでしたか? 次回は秋頃にお会いしましょう!

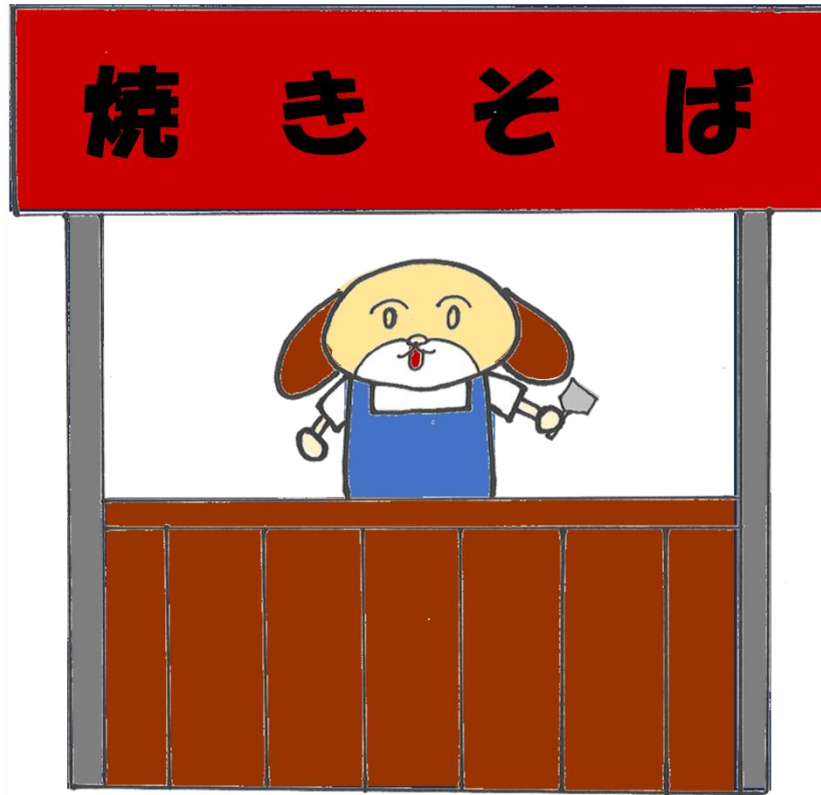
妹の浴衣コレクションが半端ない。毎年様々な浴衣の写メがスマホに送られてきます。私はお洒落な甚兵衛が欲しいな。この間入院したんだけど1着はあると便利だったかなって…。(ココ)

お祭りていつか型抜きとか射的に挑戦してみたい! と思いながら既に焼きそばだのチョコバナナやらで両手がらさがっているよ…。それが祭りなのよ…。(おもち)

ティーンズコーナーには私がティーンの時大好きだった本や当時読みたかった本が沢山…! 時間があるときに片っ端から借りて読みたいです。(メル)

習志野市立中央図書館
習志野市本大久保 3-8-19
TEL:047-475-3213
ホームページ
<https://www.narashino-lib.jp>

ティーンズレター
VOL.60



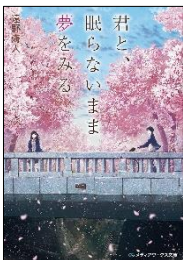
君・僕ワールド!

ここ10年でタイトルに「君」や「僕」とつく小説が
どんどこ出版されています。あまりにも多すぎて、
あれ?これは読んだようなまだ読んでいないような??
今回は2021年以降に発売された小説から8冊紹介するよ!

『君と、眠らないまま夢をみる』

遠野 海人/著 KADOKAWA

智成の親友・恭介は4年前の冬、智成とケンカしたまま交通事故で死んだ。そんな親友の死を引きずる智成の前に突然現れたのは葬式以来会わなかった恭介の妹だった。高3の智成に向かって、吹奏楽部に入り兄の遺作を演奏する手伝いをしてほしいという。それは独奏曲しか作曲してこなかった恭介が唯一作曲した合奏曲、しかも演奏時間は36時間に及ぶというもので…。かつて作曲家・演奏者・観客として時を過ごした3人の、止まっていた時間が動き始める。



『未完成な世界で、今日も君と息をする。』

如月 深紅/著 スターツ出版

17歳の誕生日に今までの記憶を失ってしまった^{つむぎ}紬。両親だという2人に原因を聞いても教えてはくれず、それまでの人間関係も思い出せない。家でも学校でも腫物のように扱われ、過去の自分と今の自分の違いに苦しみ毎日を送っていた。そんな中、ただ1人クラスの人気者の柴谷は毎日^{つむぎ}紬に声を掛け、連れ出してくれて…。



『この世界で、君と二度目の恋をする』

望月 くらげ/著 KADOKAWA

新から突然別れを告げられたのは3年前…。^{あさひ}旭は未だに思いを断ち切れずにいた。そんな中、スマホからあるメロディが。それは新からの連絡にしか鳴るはずのない着信音! 別れて以来の連絡に胸を高鳴らせる旭だったが、それは新の訃報を告げる電話だった。久しぶりに訪れた新の家、そこで新の母から手渡されたのは、新がずっと書き続けていた日記帳だった。



『僕が溺愛したのは、余命八ヶ月の眠り姫だった』

こがらし 輪音/著 ポプラ社

学校の階段から転落して頭を打って以来、未だ昏睡状態である^{みさの}未沙乃。まるで眠り姫のような寝顔に一目惚れした^{かいと}凱人だったが、その日の夜不思議な世界にいる夢を見る。そこには元気な美沙乃の姿もあって…。仲を深めてゆく2人は、現実世界で会うことができるのか。



『いつか君が運命の人』

宇山 佳佑/著 集英社

始まりは高校の入学式。花^{かや}花耶は『圧倒的な恋』と出会った。恋に焦がれ、今回こそは『運命の人』と思っは片思いで終わってきた花耶の世界が輝きだすが…。

花耶の願いがこもった“奇跡の指輪”が辿る6つのストーリー。



『未来の私へ贈る、君と紡ぐ今日の物語』

蒼井 純希/著 一迅社

両親の離婚と再婚により、ひとり母方の祖母のもとで暮らしていくことを選んだ^{いろは}彩羽。金尺で代々和紙工房『マリアージュ』を営んでいる一色家で、心の傷を抱えながらも恋にバイトに学校にのびのびと過ごす^{いつしき}彩羽。そんな彩羽の春から始まる四季に彩られた1年間の物語。



『僕は花の色を知らないけれど、君の色は知っている』

ユニモン/著 スターツ出版

高2の^{いろは}彩葉は周囲に馴染むためいつも自分の気持ちを隠し、周りの友達に合わせ愛想笑いをし、何とか学校生活を送っていた。それはとても息苦しく、色のない世界だった。そうまでしたのにグループの友達との間に溝を感じ始めたある日、学校から逃げた彩葉は通学路からそれた先にあったマリーゴールドの花畑である男子生徒と出会った。その出会いは彩葉の世界を変えるきっかけとなる。



『君を守ろうとする猫の話』

夏川 草介/著 小学館

古ぼけてがらんとした図書館。大好きなナナミのお気に入りの場所だ。そんなナナミだからこそなぜか図書館から本が何冊も無くなっていることに気が付いた。司書のおじいさんに話しても信じてはもらえず。そんなある日、ナナミは前々から怪しいと思っていた本泥棒らしき灰色スーツの男を見つけた。こっそり追いかけていくと図書館と繋がった別世界への道が現れて。さらにはしゃべる猫も。奪われた本を取り戻すためナナミと猫の冒険が始まる!

